

# MUSE

10 ●皆さんお元気ですか？厳しい状況でしたが「少し立ち止まり見つめ直す」機会が与えられたと捉えて充実の毎日でした。久々に夜空を見上げて思いを馳せたり、家族でゆっくり話をしたり。そして練習が楽しい！リード作りも楽しい！当たり前の日々が続くとなんか大事なことを忘れていましたね。日記の量が増えました。大島 弥州夫 講師（管楽器 [オーボエ]）／●2020年の新たな発見！・日頃から大切にしている友人なら辛い気持ちを全てはき出した（一人でもよいが、同性、異性で二人いればベスト！）・日頃からコツコツ蓄えているものが逆境の中でもブレない支えとなる。メールならいつでもオフィスアワーです！jiguchi@daion.ac.jp 井口 淳子 教授（音楽学）／●世界中が、かつてない混乱を経験する中で、私達、芸術に携わる人間にとりましても、取り巻く環境の変容を認める事を余儀なくされました。しかし、枯渇の中で再確認した、音楽に寄せる心、そして表現したいという欲求、それら全てが強いエネルギーとなり、きっと私達の行方を支えてくれる事でしょう。森本 友紀 教授（電子オルガン、作曲デザイン）／●私のギターの師、J. L. ゴンザレスの先生は A. セゴヴィアです。私の祖父の世代にあたります。この時代の方達はスペイン風邪を克服し、更に2つの大戦を乗り越えて音楽活動をされてきました。私達も現在の困難を必ず乗り越える事が出来ると信じ、より良い音楽を目指して共に前に進みましょう。藤井 敬吾 特任教授（ギター・マンドリン）／●若者の特権。皆さんはこのコロナ禍の中、ストレスの多い日々を過ごしてきたことと思います。こういう時こそ、ゆっくり自分自身に向き合えるチャンスなのかも知れません。そして、是非若者の特権である「大きな夢」を抱いてみましょう！きっとそこからまた新しい未来が開けると思います。岡原 慎也 教授（ピアノ）／●新型コロナの影響で様々な活動が制限されていますが、今利用できるものを最大限に活用して学びの幅を広げ、コロナが収束した時にそれまでの取り組みを活かせるように準備しましょう。困ったことがあれば一人で悩まないで教員に相談してください。三密を避けながらストレス

## 前を向いて

先生方から学生の皆さんに向けて寄せられたメッセージを掲載しています。  
（原文ママ。10-11ページにも掲載）

発散もお忘れなく！熊谷 美紀 教授（ソルフェージュ）／●この情勢下で混乱による買い占めや差別を目の当たりにし、建前によって護られていた人間の弱い部分が剥き出しになっていると感じます。こんな時代だからこそ自分の感性を大切に、目と耳を塞いでしまわないことが大切ですね。そして、後にこの経験を昇華するのが我々、芸術家の使命ではないでしょうか。中原 実優 講師（ミュージッククリエーション）／●心を震わすもの・・・【感動】は、ふとした日常の中にあると思います。誰かの優しい一言や思いやりは心に浸透する。そんな経験が皆さんにもあるでしょう。不安な世の中だからこそ忘れてはならないことがある。人々が変わらず求めるものもある。誰かに【感動】を与えられる音楽家目指して1歩1歩進んでいきましょう。松田 ひろ子 准教授（ミュージカル）／●人は音楽を通じて色々な思いを伝達し、伝達された音楽は人に影響を及ぼす。思考の伝達、意思疎通や通信は一括りに「つながり」となり、信頼を構築する。人類は重要な局面に対峙し、新しい生活様式、特に通信を介しての伝達を模索している。授業もそう。不安はあるものの手応えの予感。そう思わない？谷口 真生子 教授（外国語 [イタリア語]）／●この未曾有な社会の変化に対応するために、これまで慣れ親しんできた自分自身の行動や考え方に大きな転換が求められています。しかし音楽の力はいかなる時も不変です。私達はそれを常に発信できるスタートラインに立っています。頬を上げ好奇心を持って、創造する未来を共に探求していきましょう。松尾 卓郎 講師（合唱）／●誰もが今まで経験した事の無い様な状況で、皆さんの不安も大きな物でしょう。私自身は自粛期間を経て自分を知る貴重な時間となりました。抜けないトンネルはありません。この困難は長い人生のひとつの貴重な経験と捉えてみましょう。人生を大きな視点で想像してみると、また新たな閃きがあるかもしれません！鈴木 孝紀 特任准教授（ジャズ [クラリネット]）／●こんな状況です。そういう時に、音大生である皆さん、なぜ、あなたは、今、音大生なのでしょう。僕は思います。皆さんには、音楽人になろうとしている人である前に、芸術を学び、芸術を考え、音楽芸術を創っていく芸術家になろうとしている自分という存在について、ゆっくりと広く考えて欲しいと。山下 豊 教授（教養教育）／●#音楽を聴く #本を読む #人と話す 音楽に関わる仕事をして40数年になる。学生時代、ガムシャラにやったことの効果が、今も継続している実感がある。それは、上の3つ。表現の追求や思索するには、自分の中に人の表現（考え）をいっぱい貯める努力を始めるのが一番だ。人と話す自分の考えが整理できる。橋本 龍雄 教授（教職）／●タフに生きてほしい、の一言に尽きます。今後も社会は様変わりし続けるでしょう。そして音楽の楽しみ方も、恋人との接し方も、つらい時の過ごし方も、いまとは異なる価値観によってその姿を変えるはず。どんな状況でも、自分の立つ場所を自身でみつめ、誰にも媚がない生き方を選びとってください。久保田 テツ 准教授（ミュージックコミュニケーション）

## CONCERT SCHEDULE

演奏会やオペラなど、大音関連のイベント。

### 大阪音楽大学主催公演

大阪音楽大学コンサート・センター  
TEL:06-6334-2242  
開催日時・出演者に変更になる可能性がります

2020年度の本学主催公演は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大防止のため、一部の公演を除いて、学内関係者および出演者の関係の方のみ入場可とさせていただきます。

第65回ミレニアム・スチューデント・コンサート  
第1夜:10/19(月)、第2夜:10/21(水) 各日18:00～ ●選抜学生 ●MH ●学内関係者および出演者の関係の方のみ入場可 ●無料(要 電子チケット)

第32回ザ・コンチェルト・コンサート  
11/12(木) 18:00～ ●協奏曲ソリスト:  
Sx:大濱里佳(学3)、Pf:小縣一正(学4)、Pf:小田嶋香世(学4)、Fg:浜脇穂充(学4)、指揮:新通英洋、管弦楽:ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 ●OH ●学内関係者および出演者の関係の方のみ入場可 ●無料(要 電子チケット)

2019年度卒業演奏会  
第1日:11/13(金) 18:00～、第2日:11/14(土) 15:00～、第3日:11/15(日) 15:00～ ●2019年度卒業の成績優秀者 ●OH ●学内関係者および出演者の関係の方のみ入場可 ●無料(要 電子チケット)

第66回ミレニアム・スチューデント・コンサート  
第1夜:11/16(月)、第2夜:11/19(木) 各日18:00～ ●選抜学生 ●MH ●学内関係者および出演者の関係の方のみ入場可 ●無料(要 電子チケット)

第6回ミレニアムピアノコンサート  
11/18(水) 17:15～ ●木村直美、芹澤文美・芹澤佳司、鳥居知行 ●MH ●学内関係者および出演者の関係の方のみ入場可 ●無料(要 電子チケット)

第43回邦楽演奏会  
11/20(金) 18:30～ ●邦楽専攻・コー

ス生 他 ●MH ●学内関係者および出演者の関係の方のみ入場可 ●無料(要 電子チケット)

大阪音楽大学大学院定期演奏会2020  
11/24(火) 18:00～ ●大阪音楽大学大学院生 ●OH ●学内関係者および出演者の関係の方のみ入場可 ●無料(要 電子チケット)

大阪音楽大学 第63回定期演奏会  
12/11(金) 19:00～ ●指揮:井上道義、Fl:上野星矢、Ob:大島弥州夫、管弦楽:大阪音楽大学管弦楽団 ●曲目:高木日向子/L'Instant(ジュネーブ国際音楽コンクール作曲部門優勝作品)ほか ●ザ・シンフォニーホール ●3500円(全指定席)※高校生以下は無料招待

第7回ミレニアムピアノコンサート  
12/14(月) 17:15～ ●星賀親子、小笠原順子・松本昌敏 ●MH ●学内関係者および出演者の関係の方のみ入場可 ●無料(要 電子チケット)

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団  
第58回定期演奏会  
12/19(土) 18:00～ ●指揮:牧村邦彦、Pf:河島利香(院2)、管弦楽:ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 ●OH ●3000円(全自由席)※高校生以下は無料招待

**チケット申込システムをリニューアルします**

本学では新型コロナウイルスへの感染リスク低減と、お客様の利便性向上を目的に、公演チケットのオンライン申込システムを一新し、電子チケットを導入しました。詳しくは本学ウェブサイトから「演奏会情報」のページをご参照ください。

「ご案内」  
2021年4月より、コンサート・センター窓口および公演当日の窓口にて有料券をお渡しする場合、チケット1枚につき300円(税込)の手数料をいただきます。(在学生・教職員・音楽院生を除く)

### 大阪音楽大学後援演奏会

大竹道哉 ピアノリサイタル  
10/24(土) 15:00～ ●日本基督教団飯盛野教会 ●大人2000円、高校生以下1000円 ●m-ohtake@iris.ocn.ne.jp(大竹道哉)

土井緑ピアノリサイタル  
～バリで煌めく作曲家達 Vol.6～  
10/29(木) 19:00～ ●ザ・フェニックスホール ●一般3500円、学生2000円(当日各+500円) ●☎06-6135-0503(大阪アーティスト協会)

紡ぐ音コンサートシリーズ第4回  
岡本佐紀子、江戶聖一郎  
～ブルーノと松平頼則～  
10/31(土) 15:00～ ●Pf:岡本佐紀子、Fl:江戶聖一郎 ●音楽ホール「奏美」 ●2500円 ●sakician@hotmail.co.jp(岡本佐紀子)

Siglos y siglos 黄金の輝き～  
～スペインのダンス～  
11/12(木) 19:00～ ●Pf:北村美奈、バロックダンス:樋口裕子、フラメンコ:溝畑直子、ダビ・ベレス 他 ●豊中市立文化芸術センター 小ホール ●4000円(当日+500円) ●courtdanceensemble1989@gmail.com(コートダンス・アンサンブル)

2台ピアノによる  
芹澤佳司&芹澤文美デュオリサイタル  
12/17(木) 19:00～ ●兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール ●3500円 ●☎0797-84-5952(ラブリトサウンド)

### 幸楽会後援演奏会

越木岩神社音楽奉納会 Vol.9  
10/25(日) 15:00～ ●Sop:ニヤリみゆき、Pf:ニヤリ・ギユラ ●越木岩神社 拝殿 ●2000円(限定50名/予約制) ●☎0798-31-0009(越木岩神社)

SO IN LOVE ～絃とうた～  
11/8(日) 14:00～ ●Sop:野上聡子、

Gt:大橋俊希 ●富山市民プラザ アンサンブルホール ●一般2000円、学生1000円(小・中・高) ●☎090-6816-4991(野上)

黒岩航紀&乾将万  
ピアノ・デュオ・リサイタル  
11/13(金) 18:00～ ●茨木クリエイティブセンター・センターホール ●一般3000円、学生2000円 ●☎072-625-3055(茨木市文化振興財団・文化事業係)

ピッコロ室内楽サロン<186>  
Flute Quartet emicoco  
11/14(土) 14:00～ ●Fl:坂本よしえ、松岡希、福島京、松本美菜子、Pf:井上瑠衣子 ●ピッコロシアター小ホール ●一般2000円、高校生以下1500円(ピッコロシアタークラブ会員は各1割引) 要予約/限定30席 ●☎06-6426-1940(ピッコロシアター)

関西在住女性作曲家による  
上方ミュージカル第一弾  
楽しい手話通訳つき  
レイチェル・カーソン  
11/21(土) 14:30～ ●藤本裕貴、谷浩一郎、西村圭市、浅川文恵、音楽:山田美由紀 他 ●クレオ大阪中央ホール ●3000円(当日+500円) ●☎090-8043-0352(夙川座)

クラシック演奏家が贈るジブリとClassic  
12/13(日) 15:30～ ●Sop:斉戸英美子、野々村彩乃、Vn:堀江恵太、Pf:乾将万、箏:橋本桂子 ●立命館 いばらきフューチャープラザ グランドホール ●大人1000円、子ども500円(中学生以下) ●☎072-625-3055(茨木市文化振興財団・文化事業係)

4台のピアノと若手ピアニスト達の競演  
PIANO FESTIVAL 2021  
2/11(木)祝 18:30～ ●乾将万、岸本紗耶、金希星、黒岩航紀、神野莉来、田代彩 他 ●住友生命いずみホール ●S席5000円、A席3000円、学生1000円、LIVE配信2000円 ●☎06-6944-1188(住友生命いずみホールチケットセンター)

OH:ザ・カレッジ・オペラハウス MH:ミレニアムホール ※必ず主催者発表のものと照合してご確認ください。

### 2021年度学校推薦型選抜

出願期間:2020年10月26日(月)～11月6日(金) ※消印有効  
試験期間:2020年11月22日(日)～11月23日(月)祝  
詳細は2021年度入学者選抜要項をご確認ください。

次号は2021年1月15日発行予定です。

MUSEの住所・氏名変更の手続きについて▶変更前と変更後の住所や氏名(よみがな)を大学へお知らせください。メール(muse@daion.ac.jp)かFAX(06-6334-2141)で受け付けております。 ※郵便物の転送サービスは期間が終わると配達されなくなります。

### 2021年度限定 緊急特別奨学金制度

詳細は、本学HPをご覧ください。



最新情報を配信中!



右記のSNS配信サービスでも大音情報をチェックできます。

# Cheer Up!

## 前を向いて

未曾有の災禍と真正面から対峙し、

貴重な経験として未来に生かす。

中村孝義 理事長

新型コロナウイルスが世界中にまん延するようになってもう半年以上が過ぎました。しかし未だその勢いは衰えることを知らず、いつ終息するかさえ全く見通せません。誰もが予想だにできなかった災禍を経験して、社会や世界の在り方は大きく様変わりしました。もちろん大学も例外ではありません。大学での学びの中心にあった対面レッスンや授業が困難になるような事態の中で、大学もまたその在り方を根本から見直す必要に迫られているのです。いや大学だけではありません。人類は今、これまで我々が良しとして築いてきた様々な在り方が、本当に世界を存立させるうえで当を得ていたのかどうかさえ問われているのです。我々はこの課された課題から逃げたり、はぐらかしたりするのではなく、真正面から対峙し、この災禍に真剣に向き合うとともに、この間に考え抜いたことを未来への貴重なレガシーとして生かすことができるように頑張らねばなりません。いずれにせよ抜けることができない永遠のトンネルなど、この世にはないのですから。

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大により、全世界が大きなダメージを受けています。大音では3月に予定していた卒業演奏会や卒業式、4月の入学式を中止し、前期の授業開始も5月16日まで延期せざるを得ない状況になりました。半年以上経過した今も終息の兆しが見えない中、世の中は「ウイルスとの共存」に視点をシフトし、元の日常を取り戻すため徐々に動き出しています。今回のMUSEは、大音の教員からメッセージをいただき、音楽と向き合う学生の皆さんが夢や希望を失うことなく前に進むためのヒントをお届けします。

この経験、無駄にはしない。

# コロナ禍の今考える、 音楽を学ぶ意味、奏でる価値。

5月の授業開始以降、大音の学びの場ではどのような取り組みを進めてきたのか。また、学生の様子を通して感じること、伝えたいことを、各専攻の先生にお聞きしました。



感性が輝く「いま」を大切に、  
音楽と生きる幸せを  
かみしめてほしい。

**本山秀毅**  
学長

この半年、皆さんの心の中には様々な思いが去来されたことでしょう。理不尽だと感じるものもある意味、当然かもしれない。その中で培われ、確信した思いを保ち続け、出会った美質を継承するエネルギーを持ち続けてほしい。

世の中が必要とする「新しい様式」は確かに大切かもしれませんが、しかし、そもそも皆さんにとって重要なものは、普遍にして決して変わることはないでしょう。自らが学びの中心に位置づけている音楽について、それ自身を深めること、あるいは一つの「手段」としてどのような「目的」に用いるのか、若い皆さんが見出すべき課題は山積しているはずですが。

後期も決して見通しが良いわけではありません。われわれは皆さんの学びの環境と質を確保するために力を尽くします。決して焦る必要はありません。同時に、時間が際限なくあるわけでもない。皆さんの人生の中でも感性がフレッシュに輝く「いま」を大切に、これからも音楽と共に生きることを幸せを十分にかみしめてほしいと願っています。

## 2

月下旬以降、公演の中止が相次ぎました。未知のウイルスの世界的流行という事態に「(中止も)仕方がない」と受け入れることはできましたが、出口の見えない状況に「学生たちが夢を持てる世界に戻るだろうか」と不安が募りました。

大音でも卒業式や入学式が中止となる中、音楽教員の間で「在学生と新入生に歌のメッセージを」という声が上がリ、個別に撮影した動画(元氣をお届け)をYouTubeで発信しました。学生に向けた配信でしたが、ご覧になった学外の方からも「励まされた」「涙が出た」といった反響をいただき、歌の力、音楽の力を改めて実感しました。

5月、感染防止対策を講じ、音楽専攻でもリモートと対面の2本立てでレッスンを始めました。リモートでは音に時差が生じるため、伴奏を弾いてあげることができません。必然的に伴奏を自ら想像しながら歌うことになるからか、和声感や音程の正確さが増した学生が多くいました。また、画面越しに口の形を間近で見ると、発音のチェックができることもリモートのメリットでした。その後、段階的に対面授業が増え、現在、ほ

とんどの演習科目が教室で行われていたのですが、前期末の各授業の発表では、例年以上に良い演奏を聴かせてくれる学生が多く、この大変な状況の中での頑張りに感動しました。当初、対面の代替に過ぎないと感じていたリモートの予想外の効果にも気付かされ、利点を理解した上で活用していくことも大切だと思いました。リモートに限らず、この状況だからこそ知り得たことは、全て「発見」や「可能性」だと捉えたいです。

直面したときこそ人は音楽に勇気づけられ、奏で、そうやってさまざまな作品を今につないできました。生きる根本の部分に必要な「音楽」は、どんな状況でも消えることはありません。

音楽専攻は「人が大好き」「大学大好き」な学生ばかり。新しい生活様式にもいち早く順応し、仲間と過ごす毎日が本当に楽しそう。すでにしっかりと「前を向いている」のではないのでしょうか。

状況に応じて工夫をし、その時々の中でいかに最大限の力を発揮出来るか、そうしたスキルを高めていくことが今後より一層求められる音楽界——彼らの姿を見ていると「未来は明るい」と感じます。



こまめな換気と万全の飛沫対策をし、発表会の稽古に励む学生たち。

時代に順応し、  
音楽と向き合う学生たち。

その姿に「未来は明るい」と感じる。

**石橋 栄実**

音楽専攻・コース 教授



## 不安や心配事は

声に出してみよう。

支えてくれる人が

きっと身近にいるはず。

3月以降、教職課程に関係する講義や教育実習などのスケジュールが次々と延期になり、先行きを見通せない日々が続きました。

大学構内への立ち入りも禁止され、学生の皆さんにとっては想定外の厳しい状況の中、それでも教員免許取得のために必須の課題をやり遂げなければならず、不安や焦りは大変なものだと思います。

そんな彼らをどう支え、どう力をつけさせていくのか——これが私たち教員の一番の課題でした。前期の遠隔授業が始まり、「音楽科指導法(合唱)」では、リモートコース「愛は勝つ」に取り組みました。学生たちにはそれぞれ自宅などで歌っている自撮り動画を提出してもらい、それらの動画を素材に一本の合唱動画を作成しました。今年入学した短大1年生は、どんな



現役生のサポートに協力してくれた卒業生のみなさん。

クラスメイトがいるのか顔すらもわからない状況だったのですが、合唱動画を通して互いを知りつなげることができました。別々の場所においても歌声を通してつながる喜び、合唱を実感できる機会となったのです。

教育実習では予定されていた実習期間が短縮された学生が多かったことから、遠隔授業として20コマ以上の「特別講座」を開設しました。その際、心強かったのが、大音を卒業して間もない現役の「先生たち」がコンテンツ作成に協力してくれたことです。「学校現場の今」「生徒対応のコツ」などのテーマで、10人を超える卒業生らが、自分の現場経験を基に動画の中で現役生に向けて熱く語ってくれました。また、授業外では、学生が今抱えている悩みの相談に乗ってくれたり、教探模擬授業の対策に

についても話してくれるなど、手厚いサポートをしてくれました。年齢の近い、顔見知りの先輩からのアドバイスは学生にとって大きな支えです。そして、このつながりがこそが、大音の底力。だと頼もしく思いました。

## 園田 葉子

教職課程 音楽科指導法 教授

今回のコロナ禍は社会の価値観に大きな変化をもたらした出来事だったと思います。ドイツ政府が「アーティストは必要不可欠であるだけでなく、生命維持に必要なのだ」といち早く大規模な支援を打ち出したことはその象徴。自粛を強いられた期間、音楽を聴いたり、映画を見たりしながら過ごす中で、普段は不要不急とされている「芸術」が実はとても大事なんだということに気づいた人が多いのではないかと思います。「いいね」やフォロワーの数、PVの多寡が一つの価値として確立している時代、世界中の人が苦しんでいるときにそうした数を競い合うことが私には希薄なものに見えてきました。「売れる」「バズる」というのは、時に違いの分からない人に大量に届けるという量の行為に陥ってしまう恐れがあります。「売れること」を目的に大ざっぱなモノづくりをしまつと誰が作っても同じものになり、最終的には価格で競争する世界になってしまいます。私たち表現者は、今こそ細かな違いや質に徹底的にこだわりたい分かります。しっかりと届けていくことが求められているのではないのでしょうか。

私も自身、レコーディングやプロデュースしているライブなどいろいろな仕事でストップしましたが、その中でも動いていたプロジェクトにはいつも以上に時間をかけて丁寧に作品をつくることができました。職人的な時間を過ごすことはすごく快適でしたし、クリエイターとして本来あるべき姿、原点に立ち返ることができたと感じています。ミュージッククリエイション専攻は5月の授業再開以降、リモートでの授業を継続しています。リモートを始めるときにこだわったのは、実際の授業と変わらないクオリティーで届けること。学生からもおおむね好評です。データのやり取りなど、むしろスムーズになったと感じる面もあります。ただ、音楽家を育てるという点では人との関わり方やコミュニケーションの取り方などを伝えられないことが課題。また、学生が抱えている不安や不満を拾い上げることができないもどかしさもあります。

不安を感じたときのヒントになるのが、アウシュビッツの記録をつづった本にあった「絶望的な状況でも目標や展望があった人が生き延びた」という一節。予定が決まっているとなんとなくポジティブでいられるのと同じで、自分の目標や展望、長期的な目標を持つことが前に進むための道しるべになるんじゃないかと思います。

## 渡邊 崇

ミュージッククリエイション専攻 特任教授

## 自分なりの長期的な

## 目標、展望が

## 前に進むための

## 道しるべになる。



# 羽鳥三実広

ミュージカル・コース 教授

**自** 肅期間中、ミュージカル・コースではバレエやダンス、歌などのレッスンをリモートで配信していました。こちらで見本を見せて学生にやらせてみるのですが、最も大切な息づかいや温度感が画面越しでは伝わらず、学生も教員も非常にもどかしい思いをしました。ミュージカルは「人との関わり」で作り上げていく芸術。できる限りの感染予防対策を施し、5月末に1対1のボーカルレッスンを開始、6月には対面授業を全面的に再開することができました。

再開後に驚いたのは学生たちの集中力です。スタートが2カ月遅れ、再開後もひとコマ90分を2つのグループに分けているにも関わらず、例年使っている前期用テキストが7月に終わってしまったんです。大音で10年間指導してきた「テキストを足さなければ」と思ったのは初めて(笑)。今でも授業に臨む学生たちの目はらんと輝いています。授業時間以外も自分たちで勉強している。さまざまな制約のある中、大事なのは時間ではなく集中力だと、学生たちの姿から学ばせてもらいました。

大学で学生たちと接していて感じるのは、若い人たちは未来を見ているということ。未来があるから、今があるし頑張れる。今年の春以降、エンターテインメント界は「延期」「中止」が相次ぎ、厳しい状況に置かれましたが、何でも中止にすべきではない、何かしら道があるはずだというのが私の考え。エンターテインメントがなくなってしまうことはないと思いますが、今までと同じようにできなくなるのは仕方がないこと。そうした制約の中で表現する場を作り、若い人たちに未来を見せるための知恵を絞ることが、私も含めたエンターテインメント界全体の課題であり責任だと思います。

“今だからこそ見えるもの”

を見つめ、  
表現者にとって  
必要な感性を磨こう。



感極まった

半年ぶりの本番。

コロナと付き合いながら、

“生”の音色を届けたい。

# 片岡リサ

邦楽専攻・コース 特任准教授

**3** 月以降、私自身の演奏活動はもろろんのこと、小学校や中学校への演奏指導も中止になり、人と接する機会がすべて無くなってしまいました。私は演奏する舞台に向けてモチベーションを上げていくタイプなので、時間はたっぷりあっても本番という目標がない自肅期間は気持ちもどんよりとしていました。

そんな中、自宅で録音した演奏動画をYouTubeにアップしている人を見かけ、私も多重録音アプリを使った、ひとりアンサンブルにチャレンジしました。自分の音に自分で重ねるのは初めての経験。30秒から1分程度の短い曲でしたが、普段学生に指導していることを、自分自身の演奏においても確認できたり、全部のパートを一人で弾くことに不思議な感覚を覚えたり、これまでになかったモチベーションを感じながら、集中して取り組むことができました。

5月の授業再開以降、レッスンはZoomで行い、学生たちの演奏は自分で撮影した動画をYouTubeに限定公開でアップしてもらって私がチェックするといった形式で行いました。学生の演奏動画はなるべく手元が映るように録ってもらっていたので、一人ひとりの特徴やクセがよくわかりま

したし、学生にとっても私の指導と動画を照らし合わせながら繰り返し見て見ることができたのは効果的だったようです。

邦楽専攻は早いタイミングで対面授業に移行できましたが、座学系の授業はリモートが続いており、学生が毎日全員そろっている状況ではありません。毎日顔を合わせて「おはよう」のあいさつだけでも学生の雰囲気や様子を感じ取ることができたころを思うと、人と人が会う一瞬の時間の大切さを改めて感じています。

「中止」「延期」が続いた時期を過ぎ、スポーツ界、音楽界などさまざまな活動が徐々に再開されつつあります。私も8月に舞台で演奏する機会がありました。これまで半年も本番から遠ざかったことがなかったのも、久しぶりに人前で第一音目を「ボン」と弾いたときには感極まるものがありました。「演奏する機会」を失った私たちと同じように、「生演奏を聴く機会」を失っていた聴衆のみなさんも演奏会の再開を心待ちにしてくださっています。コロナ禍以前の状況に完全に戻るはまだ先のこともかもしれませんが、感染予防対策をしっかり実施し、ミュージカルで世の中がうまく回っていくといいなと思います。

去る6月末、約半年ぶりにコンサートに行きました。客席はひとつおきという入場制限がありました。私は、あの状況の中、多くの方が喉の渇きを癒やすように音楽を欲していたことを驚きつつも心から嬉しく思いました。音楽界の希望を見た思いがしたので。学生の皆さん、人々はあなたたちの音楽を心待ちにしていますよ！

高 昌 帥  
教授(作曲、作曲デザイン)

自粛。思考回路はかなりマイナス路線。でも弾いている時は無心で音を追っている自分がいた。ただただ音を感じる。感じていたい。これは私の周りの音楽好きな人達も同じだった。生で聴く音が響きが恋しいと、待ってくれていた。音楽は心の栄養。しみじみ思う。学生みんなの今の頑張り、この先、人の心の栄養となっていく。みんなは、そんな素敵な道を選んだ。一歩ずつ、一音ずつ。自分の音楽を栄養満点にしよう！

赤松 由夏  
特任准教授(弦楽器 [ヴァイオリン])

厳しい制約の中、こぼれ聞こえてきた疲れ冷め諦めるみんなの声。想像を遥かに超え弱った姿をたくさん見ました。一人でいると忘れそうになりますが、音楽は人を豊かにするものです。少しずつ再開の再会で、戻ってきた笑顔と笑い声、そこに生まれた幸せな音、今改めて感じることを忘れないでいたいですね。

葛西 友子 特任講師(打楽器)

自粛期間に始まった遠隔授業は、私にとって貴重な学びの機会となりました。ネット環境に対する学生の柔軟な対応には、感心するばかりです。今後は多様な活動方法を模索しなければならいかもしれません。将来の音楽業界を担う若い皆さん、助け合いながら共に成長していきましょう。頼りにしています！

藤井 快哉 教授(ピアノ)

卒業式、入学式が実施できず、当たり前が当たり前で無くなったことを経験して、コロナに大切なことを気付かされた。当たり前が成り立つにはそれを支える人が必ず存在すること。普通に慣れ過ぎると、支えている人に気付けない。ステイホームが出来たのは、ホームアウトで支えてくださる人のお蔭、感謝です。

前川 隆 哲 講師(雅楽)

芸術は元来、個が基本だと思います。個が個へ伝えていくモノの延長線上に、芸術の成り立ちがあると思います。それを考えれば個に費やす時間は、素晴らしいモノを生み出すチャンスでもある訳です。個の時間がある今こそ、未来の創造の為に有意義に使ってみてください。必ず良いことがあります。

松田 淳 一 特任教授(ミュージックコミュニケーション)

楽器の演奏は一人でもできるけれど、自分の感じる音楽を誰かに聴いてもらいたい、誰かに伝えたいですね。Outputだけでなく、Inputも大切です。今は自分自身の演奏にもう一度向き合い、自分でも「いいね！」と言えるようにできればな、とあがいています。皆さんもがんばろう！

土橋 薫  
特任教授(パイプオルガン)

1985年8月に日本航空の旅客機が墜落した。その中で、数少ない生存者のうちの一人の少女が病院で意識を取り戻し、当時の人気グループであった「チェッカーズ」の曲が聞きたいと語ったというのを新聞で読んだ記憶がある。どのような悲惨な中でも「癒やし」となるのは、案外身近にある音楽なのかもしれない。

福 榮 宏 之  
教授(ポピュラーインストゥルメント)

大学からZoomレッスンをライブ配信したのは5月末でしたが、言葉と心を尽くして音楽を伝えるのに不自由はなく、自粛期間中も学びは絶えませんでした。音楽は他者の語法を学ぶことに始まる諸学の一つ。予測もつかない速度で次の世界が形成されている今だからこそ、私たちの専門性は新しい可能性となります！

赤松 林 太 郎 特任准教授(ピアノ)

雨天時に「天気が悪い」と言いますが、天気自体良いも悪いもありません。雨に何を感じてどう過ごすかはその人次第です。ニュートンはペスト蔓延に伴う大学休校の2年間で万有引力の法則を発見し、それを「創造的休暇」と呼びました。雨でも晴れでもコロナでも、日々を創造的に過ごし音楽に昇華する力を皆さんは持っています。

朴 守 賢 講師(作曲デザイン)

## “コロナの時代”に思うこと。

自粛期間中に考えたことや感じたこと、“コロナの時代”の心の持ち方、整え方など、前を向いて進むためのヒントを先生方にお聞きしました。(表紙にも掲載しています)

自粛期間中、面識のないメキシコ人のオーボエ奏者から“チャオ！君の音楽好き！オーボエの曲書いてよー”とSNSからメッセージを貰った。南米のノリ？が新鮮で嬉しく、彼の為にソロの曲を書いて送り、Skypeで曲の微調整をした。このようなやり取りは、今の通信回線では限界もあるが、時代の変革の一端を垣間見たような経験だった。

高木 日向子  
講師(作曲)

学生の皆さん、笑顔で過ごせていますか？私はステージが全てキャンセルになり、歌う事が出来ず辛かったのですがその分、自分自身と向き合う時間が出来た事で少し考え方や心の変化を感じています。「大丈夫」と言う言葉にはそれぞれ「人」という字が入っていますね。人は支え合うのです、音楽で！だから笑顔で！！

中田 幾子 准教授(ヴォーカルパフォーマンス)

学生の皆さんは「音楽」という明確な目標、夢を持って本学に進学なさったと思います。その音楽は、人と人との間を共鳴させるもの、国境を越えて人の心に届くもの、そしてどれだけ安らぎや勇気、喜びを人々に与えてきた事でしょう！その素晴らしい音楽に携われる事は幸せなことであり、誇りを持てる事だと思います。コロナに負けないで真っ直ぐこの道を歩いていきましょう！

荒田 祐子 教授(声楽)

人類は何回もウイルスと戦い、勝って来ました！今回も必ず乗り越えられます！今回の事で今まで気づかなかった事に気づけたり、たくさんの経験をされたと思います！音楽の持つエネルギーも再認識された事でしょう！そのエネルギーを持って輝かしい新しい時代を一緒に迎えましょう！どんな時代を作れるか、可能性は無限大です∞

晴 雅 彦  
教授(声楽)

02



1. 実際に行われているボーカルレコーディングの様子をステージ上で再現。歌手(学生)、ディレクター(学生)、レコーディングエンジニアがしっかりと連携し、進行していく様子は、まさにプロの現場でした(ミュージッククリエーション)。2. 入口にて手指の消毒を徹底。来場者の検温も実施しました。3. ミレニアムホールでは、電子オルガン、作曲デザイン、ミュージッククリエーションの講座が行われました。新型コロナウイルス感染症の対策として、座席の間引きや客席では声を出さないなど、細心の注意を払って実施しました。4. 相手に届ける歌声を意識した発声練習や、高校生一人ずつの歌唱で見つけた課題を全員で共有し、それぞれにアドバイスをしました。参加した高校生たちはそれぞれに学びを持ち帰りました(声楽)。5. 箏曲の演奏を交えて、箏の「調子」について解説。片岡リサ特任准教授と在学生による箏のアンサンブルは圧巻でした。最後には在学生への質問コーナーも設けるなど、邦楽専攻・コースの魅力を言葉と演奏で伝えました(邦楽)。



### YouTubeでの生配信も実施 夏のオープンキャンパス2020 開催

7月19日(日)、夏のオープンキャンパスを開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響で開催が危ぶまれましたが、万全の対策を施した上で対面式での実施となりました。本学への進学を目指す高校生にとって、オープンキャンパスは大学の雰囲気などを体感する大切な機会。各々興味がある専攻・コースの講座に参加し、進学への期待を膨らませていました。ミレニアムホールで行われた講座は大学公式YouTubeで生配信も行い、来場がかなわなかった方へも大音の様子をお届けしました。

03



### 楽器資料館企画展示 大阪音楽大学創設者 永井幸次先生

2020年、大阪音楽大学は創立105周年を迎えました。本学楽器資料館では、創設者である永井幸次先生にまつわる資料を集め、「大阪音楽大学創設者 永井幸次先生」と題した企画展示を行っています。永井先生愛用のリードオルガンを中心に、在りし日の写真や校歌の自筆譜(複写)など、校史資料約57,000点から選出し展示しています。



※新型コロナウイルス感染症等予防のため、休館することもあります。開館情報につきましては本学HPでご確認ください。

01



### 本学における新型コロナウイルス感染症対策と学生への支援について

新型コロナウイルス感染拡大により、本学では卒業式、入学式、各種演奏会などのイベントの中止や延期を余儀なくされました。また、政府から緊急事態宣言が発令されたことを受け、「3密」状態の回避、不要不急の外出自粛等の観点から、学生の学内への立ち入りを禁止し、新年度の授業開始を延期しました。先行きが見えず授業再開の目途も立たない厳しい状況が長らく続きましたが、学生の学習環境を確保するべく、本学では5月16日から遠隔授業を開始しました。

授業動画の配信やZoomなどのweb会議サービスを利用したオンタイム授業の実施、各種課題の設定を行い、ようやく一歩踏み出すことができました。遠隔授業はこれまでに実施経験がなかったこともあり、学習環境の整備のため、在学生全員に一律の遠隔支援金を給付しました。緊急事態宣言が解除された後、5月25日以降は遠隔授業と並行して、段階的に対面授業を再開。本学オリジナルの飛沫防止パネル「DAIONパネル」を活用している他、手指の消毒や換気の徹底など、万全の対策を講じています。キャリア支援センターではオンライン相談を実施し、学生の進路サポートも継続しています。

元の日常を取り戻すにはまだ時間を要しますが、引き続き学生の安全と健康を第一に、より充実した学習環境の整備、教育の質の確保ができるよう取り組んでいきます。



10

キラリ★輝く大音の星 各種コンクールで受賞された皆さん。

受賞された皆さん、おめでとうございます！



**原田 友梨佳**  
(大4・ピアノ演奏家特別)  
第36回 JPTA  
ピアノ・オーディション  
D部門  
**地区予選優秀賞**  
▶2019年11月17日  
大阪音楽大学ミレニウムホール  
SAKURA JAPAN MUSIC  
COMPETITION 2020  
ピアノ部門カテゴリーⅡ  
大学生の部  
**第1位**  
▶2020年4月2日 録画審査



**内田 友咲**  
(大4・ピアノ演奏家特別)  
第13回ヨーロッパ  
国際ピアノコンクール  
in Japan  
自由曲コース 大学A部門  
**金賞**  
▶2019年11月30日  
東京芸術センター 天空劇場



**齊藤 花梨**  
(19年度大卒・サクソフォン)  
第5回  
堺管打楽器コンクール  
木管部門 一般の部  
**第2位、  
サカイパンダ賞**  
▶2019年12月1日  
堺市立西文化会館ウエステイ



**中辻 葵**  
(大2・クラリネット)  
第29回日本クラシック  
音楽コンクール  
クラリネット部門  
大学の部  
**第3位 (1、2位なし)**  
▶2019年12月4日  
ハルテノン多摩 小ホール



**川口 蒼太**  
(大3・サクソフォン)  
第37回  
全日本ジュニアクラシック  
音楽コンクール  
木管楽器部門 大学生の部  
**第1位**  
▶2019年12月25日  
亀戸文化センター



**住元 美穂**  
(13年度大卒・ピアノ)  
第13回ベーテン  
音楽コンクール  
ピアノ部門  
自由曲コース一般AⅠの部  
**第2位**  
▶2019年12月28日  
エリサベト音楽大学  
セシリアホール



**上妻 希緑**  
(95年度大卒・ピアノ)  
第13回関西ピアノ  
オーディション  
指導者部門  
**最優秀賞、  
大阪市教育委員会賞**  
▶2020年1月5日  
アゼリア大正ホール



**津田 のの**  
(大4・トランペット)  
第25回 KOBE  
国際音楽コンクール  
C部門(大学生・一般)金管楽器部門  
**優秀賞および  
神戸市教育委員会賞**  
▶2020年1月11日  
ピラホール



**梅北 千香**  
(17年度大卒・声楽)  
第25回 KOBE  
国際音楽コンクール  
C部門(大学生・一般)  
声楽部門  
**優秀賞**  
▶2020年1月13日  
ピラホール



**村田 美由紀**  
(大4・ピアノ演奏家特別)  
第38回滋賀県  
ピアノコンクール  
学生・一般部門  
**第1位、  
滋賀県知事賞**  
▶2020年2月16日  
野洲文化ホール 大ホール



**和田 まり子**  
(19年度大卒・ピアノ)  
第38回滋賀県  
ピアノコンクール  
学生・一般部門  
**第3位**  
▶2020年2月16日  
野洲文化ホール 大ホール



**中津川 輝**  
(大3・サクソフォン)  
第22回「万里の長城杯」  
国際音楽コンクール  
管楽器部門 大学の部  
**第1位、  
審査委員長賞**  
▶2020年3月18日  
ピッコロシアター



**田久保 友妃**  
(06年度大卒・ヴァイオリン)  
第14回セシリア国際  
音楽コンクール  
弦楽器部門  
一般の部Ⅱ(スター部門)  
**第3位**  
▶2020年3月27日  
紀尾井サロンホール



**中川 裕子**  
(92年度大卒・ピアノ)  
第5回  
JPPAピアノコンクール  
大人のピアノコンクール  
総合全国大会  
プロフェッショナル部門  
**第3位**  
▶2020年4月1日  
横浜みなとみらいホール



**吉本 結紀名**  
(大2・ピアノ)  
第1回ポアズィチ  
芸術アカデミー  
国際オンラインピアノ  
コンクール  
Fカテゴリー  
**第2位**  
▶2020年7月1日  
オンライン審査

05



井上道義



上野星矢



高木日向子



大島弥次夫

全曲日本人作曲家の作品をお届け  
大阪音楽大学 第63回定期演奏会

「大阪音楽大学 第63回定期演奏会」が、12月11日(金)にザ・シンフォニーホールにて開催されます。指揮には井上道義氏をお迎えし、全曲日本人作曲家の作品でお送りします。プログラムの1曲目は、昨年の「ジュネーブ国際音楽コンクール」作曲部門優勝作品である、高木日向子講師作曲の「L'Instant」を披露します。オーボエ独奏は大島弥次夫講師が務めます。続く、上野星矢准教授のフルート独奏による尾高尚忠「フルート協奏曲 作品30b」にもご注目ください。その他、武満徹、三善晃といった日本を代表する作曲家の世界を表現します。ぜひ会場でご鑑賞ください。

※本公演は新型コロナウイルスの影響等で中止となる場合がございます。最新情報は本学HP「演奏会情報」でご確認ください。

08

増井一友講師が逝去

教職の増井一友講師が2020年6月5日に逝去されました。1993年から非常勤講師として本学で勤務され、器楽合奏(ギター)などを担当。長きに渡り本学の教育活動にご尽力いただきました。また、学外においても毎年ソロコンサートを開催されるなど、精力的に演奏活動をしていらっしゃいました。ここに謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

07

木村綾子教授が逝去

ピアノの木村綾子教授が2020年5月20日に逝去されました。2001年から非常勤講師として本学で勤務し、2004年から専任講師として、2011年から准教授、今年度からは教授として、本学の教育活動にご尽力されました。また、国際交流委員などを歴任されるなど、本学の運営にも寄与していただきました。ここに謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

04



高木日向子講師

「庄内さくら学園」校歌を作詞作曲

2023年4月に豊中市で初めての義務教育学校\*「庄内さくら学園」が開校されます。その開校に際し、昨年ジュネーブ国際音楽コンクール作曲部門で優勝した本学の高木日向子講師が豊中市教育委員会より校歌の作詞作曲を委嘱されました。その受領式が9月8日に豊中市役所で行われ、高木講師から豊中市長に楽譜が手渡されました。また、本学の高島帥教授が吹奏楽への編曲も進めており、楽譜を贈呈予定です。2023年の開校に先立ち、今年4月に開校した「庄内さくら学園中学校」で先行して歌われることになっています。

※学校教育法の改正で2016年4月から施行された9年制の小中一貫校。

06

新規授業  
「リトミックⅠ・Ⅱ」開講

2020年度から、リトミック研究センターの認定指定校として、音大生のためのリトミック授業を開講しました。現場で役立つ指導法(2~5歳)や、指導内容の質の向上などをさまざまな角度から学び、単位認定者(合格者)には、リトミック研究センターから「指導資格認定証」が交付されます。本学では「中級」までの資格取得が可能です。

09

NEW RELEASE

大音関係者がリリースしたCD・本・楽譜など。



田久保友妃  
(06年度大卒・ヴァイオリン)

MONA LISA

2,200円(税込)  
4-strings Records  
<https://4strings.theshop.jp/>



3年後、確実に  
クラシックピアノが  
弾ける練習法 ショパン編

2,750円(税込) リットーミュージック  
全国の書店、楽器店、オンライン書店



徹底解説 パヴァ  
「インヴェンション&  
シンフォニア」弾き方 教え方

1,045円(税込) 音楽之友社  
全国の書店、楽器店、オンラインショップ



わたしを泣かせてください

オープン価格  
キングインターナショナル  
全国のレコード店、楽器店、  
オンラインショップ

編集後記

音楽に支えられ、音楽で前を向き、音楽が背中を押してくれる、そんな経験をしたことがある方もいらっしゃるでしょうか。緊急事態において、音楽など文化芸術は後回しとなりますが、音楽は間違いなく人々の心を潤すものだと思っています。今回、先生方が寄せてくださったメッセージには、心が熱くなるばかりでした。未来に向かって、懸命に音楽と向き合っている学生さんを心から応援したいと思います。